

# 代表質問から

## 知事 政治姿勢

**問** 政策立案にまで直接県民にかかわる「千葉方式」が正しいと考えているのか。

**答** 時代の変革期において、議会との連携・協力のもとに、県民のニーズを的確にとらえた行政を進める必要があると考える。

そこで、県民みずからが、前向きに政策を提言し、行政とも十分に議論を重ね、県の政策としての実現の可能性を模索することが重要だと考える。

最近では、中小企業の方や子育てのお父さん・お母さん、高齢者、障害者など、各分野の方々が当事者として手を挙げ、声を出し、政策提言をしてくれるようになった。

## 市町村合併

また、県民が参加し、提言することで、施策の実行段階における行政と民間との協働、協力が可能となり、地域の個性と活力を生かし、その施策の推進に積極的に取り組んでいくことができると考えている。

**問** 県のリーダーシップを求めている地域の期待にこたえ、速やかに合併推進構想を策定すべきと考えるがどうか。

**答** 市町村合併は、市町村の主體的な取り組みと住民の納得が基本になると考える。

一方、市町村ヒアリングでは、五十六市町村中三十六市町村が「合併を検討したい」と回答している。

そうした中で、合併推進構想を、第二ステージでの協議開始の契機にしたいという意向や、県のリーダーシップに期待している地域もあることを認識している。

## 財政問題

**問** 平成十七年度一般会計の決算見込みはどうか。

**答** 平成十七年度の年間収支については、先の二月議会で、

おおむね均衡する見通しと云ったが、その後も経費の節減に努めたことなどにより、現時点においては二十五億円程度の黒字となるものと考えている。

なお、これはあくまでも現時点での見通しで、今後精査した上で、最終的な決算見込みについては、八月上旬ごろに示せると考えている。

## 防災対策

**問** 被害者情報等を県民にも積極的に提供すべきと思うが、県の取り組みはどうか。

**答** 災害が起きたときに何より大事なものは、正確な情報をいち早く得ること、大規模災害発生時には行政や県民・地域が協力し合った防災への取り組みは大変重要であり、県民に対して積極的に情報の提供を行うことも大切と考える。

現行のシステムでは、市町村等の県内防災関係機関に限った情報の提供を行っているが、県民に提供できる新たな防災情報システムの構築を、平成十九年度の稼働を目指して現在推進している。

障害者、お年寄りから、大きな災害が起きた時に情報を得ることが難しいという訴えがあり、きめ細かい形で情報を県民に届けることが、これからのテーマである。

## 男女共同参画

**問** ちば県民共生センターは、男女共同参画社会実現のためのセンターと位置づけていいのか。

**答** 平成十七年度まで、柏市に女性センターを設置し、相談を始めとする各種施策を展開してきたが、県全体を考えると利便性が高いとはいえない状況にあった。全県民が利用できる、県中央部の千葉市に「ちば県民共生センター」を設置し、分館として柏市に「東葛飾センター」を設置したい。

このセンターでは、従来、女性センターで行ってきた業務はもとより、新たに男性のための相談も始めたいと考えている。

男女の人権が尊重され、男女共同参画社会、豊かで活力のある社会の実現を目指し、各種の事業を展開したいと考える。

## 少子化対策

**問** 少子化対策の一環として、さらなる乳幼児医療費制度の拡充を図るべきと思うがどうか。

**答** 乳幼児医療対策事業については、この八月から入院日数の制限を無くし入院初日から給付の対象とするよう改正し、施行することとした。

平成十八年四月現在、三十二市町村が県制度に準じ、半数を超えているが、その他の十二市町村では対象年齢を小

## 環境問題

**問** 資源循環型社会づくりに向けて、県はどのような取り組みを行ってきたのか。また、今後どのように取り組んでいくのか。

**答** 平成十四年十月に策定した「千葉県資源循環型社会づくり計画」に基づき、

①3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進に向けた普及啓発事業の実施

②エコタウンプランを利用した、リサイクル施設の立地促進

③バイオマスの利活用の促進

などにより、色々な形で資源循環型社会づくりの実現に向けて取り組んできた。

こうした取り組みにより、再資源化率の向上等、一定の成果を上げているが、一層の取り組みの強化や改善が必要となっている。

## 医療問題

**問** 医師確保や医師の偏在にどう取り組んでいくのか。

**答** 現在、臨床研修医を確保するためのセミナーの開催、自治医科大学卒業生の活用や女性医師等の再就業支援策としての医師バンク、医療機関相互の連携及び機能分担等のネットワーク化などの事業に取り組んでいる。

今後は、これらの事業に加え、臨床研修を修了した後期研修医を対象とした研修プログラム内容の充実

②小児科、産科など医師不足な診療科における医療従事者の拠点となる病院への集約化を図る検討

③医師の待遇改善、専門技術の確保支援等をセットにした地域病院への医師供給の

## 環境問題

新たな枠組みの検討などを行い、これらを通じて、医師確保や医師の偏在の改善を図っていきたい。

**問** 資源循環型社会づくりに向けて、県はどのような取り組みを行ってきたのか。また、今後どのように取り組んでいくのか。

**答** 平成十四年十月に策定した「千葉県資源循環型社会づくり計画」に基づき、

## 教育行政

**問** 千葉県教育の戦略ビジョンを策定することだが、そのビジョンのねらいは何か。

**答** 社会が大きく変化する中、教育においては、学力の低下が懸念され、豊かな心と健やかな体の育成、職業への理解と働く意欲の向上、ルールやマナーを大切にすることを意識の育成、いじめや不登校への対応など、解決すべき多くの課題がある。

こうした中で、子どもたち一人一人のニーズに対応した教育の推進や、学校が家庭や地域と一体となって、きめ細かな教育を推進していくことがより一層求められている。

そこで、地域みずからがその特色を生かし、より一層地域に根差した教育を推進するため、中・長期的な県の基本方針である「あすのちばを拓く10のちから」を踏まえながら、多くの県民の参画を得て、千葉県教育の戦略的なビジョンを策定していく。



大野克己議員逝去

大野克己 議員(印西市選挙区選出・自由民主党)が平成十八年七月十日に逝去されました。

同県議は、平成七年四月以来連続三期、十一年余の長きにわたり、千葉県議会議員として県政の発展に尽力され、この間、文教・健康福祉常任委員会委員長などの要職を歴任されました。